

あなたのボランティア活動を応援する情報誌だよ！



R4. 5. 1
124号

ぼらんていあ川口

社会福祉法人 川口市社会福祉協議会
かわぐちボランティアセンター
編集：ぼらんていあ川口編集員
〒332-0015
川口市川口1丁目1番1号キューボ・ラ本館棟M4階
かわぐち市民パートナーズステーション内
TEL：048-227-7640 FAX：048-227-7641
<http://www.kwgc-borrasen.jp/>

日頃よりかわぐちボランティアセンターにご支援、ご協力いただきまして、ありがとうございます。いよいよ令和4年度が始まりました。新型コロナウイルスの影響で活動を制限される日々が続きましたが、気持ちを新たに頑張ります。今年度もよろしくお願いたします！（ボランティアセンター職員・ぼらんていあ川口編集員一同）



「青少年ボランティアスクール」開催のお知らせ

夏休みにボランティア体験しませんか♪

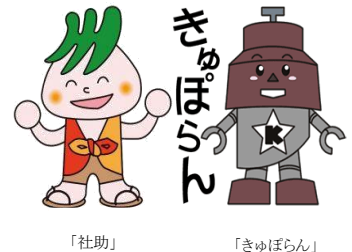
★対象：川口市内在住・在学・在勤の中学生以上で25歳までのかた
(18歳未満のかたは保護者の同意が必要)

★申込期間：6月4日(土)～6月21日(火)

★体験期間：7月23日(土)～8月10日(水)

内容の詳細・申込みについては、川口市のホームページをご覧ください。
(5月下旬に掲載予定)

※場合によっては、内容の変更や中止とさせていただくことがあります。あらかじめご了承ください。



「社助」

「きゅぼらん」

ふくしのまちづくり助成金

川口市社会福祉協議会では、住民の皆さまが行う孤立防止・居場所づくり活動を応援するため、助成金の交付を行っています。通年で募集していますので、ぜひご活用ください！

●対象事業 孤立防止活動（こども食堂など）・居場所づくり活動（サロン活動など）

●助成金 ①立ち上げ支援：新規に開始する活動に対し、10万円を上限に助成

②継続支援：継続して行う活動に対し、3万円を上限に助成

詳しくはかわぐちボランティアセンターまでお問い合わせください。

TEL：048-227-7640



R4.2.19 災害ボランティア養成講座 を開催しました

地震や風水害など大規模災害が市内で発生したとき、社会福祉協議会では川口市地域防災計画に基づき「災害ボランティアセンター」を設置し、市内外から集まるボランティア希望者の受け入れ窓口として機能します。その体制づくりに向けて「災害ボランティア養成講座（第7回）」を開催しました。当日は新型コロナウイルス感染拡大防止のため規模を縮小して実施、市内在住・在勤のかたがたが受講しました。

〇「災害ボランティア」とは？

本講座で養成する「災害ボランティア」は、災害ボランティアセンターの運営や活動を支援するボランティアスタッフです。被災地でのボランティア活動が安全かつ効果的に行われるよう、受付・派遣から活動終了までに必要な手続きや作業を行います。

講座では、趣旨や内容に関する講義のあと3つのグループに分かれて、受付やニーズ把握とマッチング、資材管理など活動班ごとに具体的な内容の説明を受けました。

〇「災害ボランティア」登録

災害発生時の迅速な対応に備え、また地域に密着した活動ができるよう、ボランティアスタッフは登録制としています。講座受講後、希望者12名が「災害ボランティア登録者」として手続きを行いました。

登録後はフォローアップ講座（年1回開催）を受講することにより非常時に備えます。また、登録は3年ごとに更新、令和4年4月現在の登録者数は65名です。

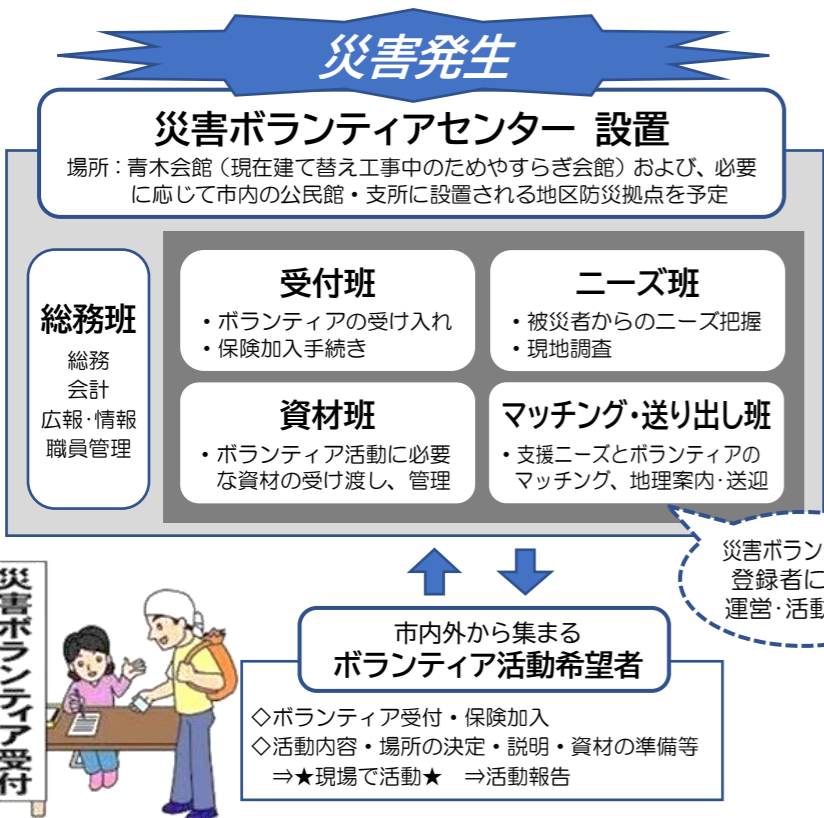


▲全体講義の様子



▲各班の詳細について説明を受ける受講者

<災害ボランティアセンター 運営のイメージ>



参加者より

被災地での実働を想定していましたが、センター運営側の活動も行うとのこと。ボランティア活動を支える大事な仕事だと思いました。

自分でもできることがあるとわかり、協力しようと思いました。フォローアップ講座にも参加してスキルアップを図りたい！！

ボランティアの受け入れ窓口は、混乱した状況のなかで判断を要する事が多く、難しさも感じますが、できる事から動いてみる事が大事だと思います。

災害ボランティア登録者による運営・活動支援

福祉教育推進員として活動しませんか？

「福祉教育」とは、未来を担う子どもたちや地域の人々が、問題を抱える子どもや心身に不自由があるお年寄り、障がいのあるかたがたと共に生きていくことを考え、福祉理解と関心を深めることやその実現のために共に手をたずさえて生きていく力、地域福祉の問題を解決していく力を身につけ、人間として成長し自らの日常生活とつなげ、誰もが安心して暮らせる地域社会づくりに取り組めるように進めて行くことです。



◆福祉教育推進員とは？

福祉教育を伝えるために活動するボランティアです。小・中学校及び地域での体験学習の実践支援などを行います。

なお、推進員は登録制で、養成講座を受講した上で希望されるかたに登録していただきます。令和4年4月現在の登録者数は20名です。

小・中学校あわせて年間約50校で活動しており、主な内容は以下のとおりです。
(体験学習の例) 車いす体験、アイマスク体験、高齢者疑似体験、ポッチャ、手話、点字、当事者の講話など

***** 福祉教育推進員の主な役割 *****

- 1 学校などで体験学習の実践支援**
 - ・自分の住んでいる地域を主としながら、福祉教育の目指すことを児童・生徒・地域に伝え、広めていく。
- 2 定例会への参加**
 - ・毎月第1火曜日に開催（於：やすらぎ会館2階集会室）
 - ・福祉教育実施後の報告、体験学習等の内容に関する協議、勉強会など
- 3 福祉教育推進員として講座などへの協力**
 - ・福祉教育推進員ボランティア養成講座への参加・協力
 - ・ボランティア学習・福祉教育情報連絡会議への参加
 - ・センターで実施している講座への参加
- 4 その他**
 - ・ボランティアセンターの事業への協力など

<推進員の声>

体験を通して子どもたちの表情の変化を見ることができて嬉しい♪

体験後に児童・生徒からの感想、質問が多く出るとやりがいを感じます！



▲アイマスク体験



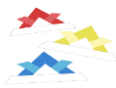
▲車いす体験

福祉教育推進員ボランティア養成講座を開催します！！

教育機関や地域で福祉教育の活動を行うボランティアを養成するための講座です。ふるってご参加ください。

対象：平日の活動に参加でき、毎月第1火曜日の定例会になるべく参加できるかた
日時：令和4年6月15日（水）14：00～16：30
場所：やすらぎ会館 集会室
申込：かわぐちボランティアセンター 048-227-7640





ボランティア広場



子育てサポーター養成講座

- 内容** 市内開催の講座、行事などでの乳幼児の託児ボランティアを養成します。
- 対象** 子育てサポーターとして活動したいかた、子育て支援に興味があるかたで、原則全日程に参加できるかた
- 日時**
- | | | | |
|-----|-----------|-------------|---|
| 第1回 | 6月 8日(水) | 10:00~12:00 | 子どもの保育、子どものけがと病気の応急処置 |
| 第2回 | 6月 15日(水) | 10:00~12:00 | 子どもの安全と心肺蘇生法、AEDについて |
| 第3回 | 6月 22日(水) | 10:00~11:30 | 子どものこころと身体の発達 |
| 第4回 | 6月 29日(水) | 10:00~11:30 | ボランティア活動の基本とかかわり方
活動の注意点、子育てサポーターの登録について |
| 第5回 | 7月中の1時間 | | |
- 人数** 16名(託児は満1歳以上で4名まで可)
- 会場** 芝南公民館 2階 講座室2(第2回は3階視聴覚室)
- 申込** 5月10日(火)10:00~ 電話またはFAXで子育てサポートプラザまで
TEL:048-250-1221 FAX:048-250-1643



短歌

吾、病みて動けぬ体こまごまと気づかいくるる息子頼もし

作者は骨折して、先ごろ入院した。家族に心配かけたといっていたが、とくに息子の看病に感動したお話を聞きました。はやく全快なされますよう。

(選者 短歌・ほおずきの会 金子 富美子)

田中 澄子

戦争で死者の数字が増える度もどらぬ命に怒りが募る

このところ、戦争のニュースがテレビのかなりの部分を占める。その中には戦いのたびかなりの死者数が発表される。戦いの場所から遠くへだった日本でも心が騒ぐのだ。

笹田 光江

移ろいてあわきピンクの桜草客待つ店先和みくれたり

淡いピンクの桜草のつぼみがやつと開いたのだ。次々と来るお客様もほっとした気持ちで眺めている。花鉢に世話をした作者がいちばんうれしいのである。

栗原 正栄

使用済み切手ご協力のお礼

市内郵便局、企業、個人など様々なかたからのご支援により、令和3年度の使用済み切手の換金額は25,166円となりました。このお金はボランティアの推進などで、大切に使用させていただきます。引き続きボランティアセンターでは、使用済み切手の収集を行います。切手は周囲を約5mm~1cm程度の余白を残してお持ちください。

またカードの収集は、買い取り先が買取を行っていないため、今後は収集を行いませんので、ご了承のほどをお願いいたします。

編集後記

本号で紹介した「災害ボランティア養成講座」に参加しました。H7 阪神・淡路大震災で約130万人、H23 東日本大震災では150万人以上のボランティアが被災地復旧に携わったと聞き、一般市民のかたがたの活動が大きな力となっていることや、それを支える社協の役割の重要性を再認識しました。

地震や水害など自然災害は頻発しており、自身の非常時の備えを改めて確認するとともに、いざ発生したときには地域の復旧にも協力する心構えでいたいと思います。

(ぼらんていあ川口編集員 K.I.)